

り、またそれをふたつにわるとき、小刀にて一ツ／＼内と外へきめて割にぞ、内なるは葉の如く、そとなるは花の如くなるなり、それを絲にてあみてのち、穂のかたちになりたる木をあて、絲にてしかとく、り、湯につけてのち水へいるれば、穂のかたち定り侍るなり、

〔和漢三才圖會三十一庖廚具〕茶筴

按、茶筴削竹作穗如帚甚織密、振茶發泡者也、和州高山石政之作爲勝、

〔雍州府志土七〕茶筴 河内國高山并賣來人製之、賣京師、其内賣來之所造者、是利休之所好也、比尋

常所用之茶筴、則良大而滾、茶爲宜、四條坊門極樂寺空也、上人之徒亦專造之、然、龜工而充、滾煎茶之用而已、

〔槐記〕享保十一年正月十一日、參候茶筴ノ吟味ナドハ、世間ニタエテナキコト也、アラホノ筴ハ此

茶碗、コノ茶筴ハコレト、ソレトカハリアルハ、風流ニノミスルコトニアラズ、ソレデナケレバ立ラレヌユエナリ、十四日、參候、筴ノコトモ再ビ窺フ、仰ニ○近衛家七通りアルモノ也、先アラホ、

シゲホ、ツボミ、ヒラキ、節ドマリトテ、七通り也ト仰ラル、五月三日、參候、兼テ御物語ノ茶筴七種ノ形、御ミセナサル、アラホ大シゲホ、小ツボミ、大茶筴、十三年三月五日、參候、昨日御室へ參リ

テ花ヲ見物致セシガ、友梅ト云ヘル老人、提茶箱ヲ持參シテ茶ヲ立シガ、筒茶碗ノ染付ニテ侍リシ、茶ヲ仕廻ノトキ、岡崎ノ二三○山科ガ余○道安ガ袂ヲ引テ、筒ノ茶碗ニハ茶筴ニ極リアリ、覺悟セシ

ヤト云、不知ト對シガ、茶筴ニ節止ト云アリ、アレハ筒茶碗ノ茶筴也ト云、是ニ付、日外節止ノ茶筴ヲ獻上ノ方アリテ、御尋アリシトキ、何ノ爲ヤラント申シ上シガ、尤ナルコトヲ申タリト存ズ、イ

カニ思召ヤト窺フ、是ハ面白キコトナリ、御流儀ニモ終ニナキコトナガラ、節止ニテナクテハ叶ハヌコト也、上○近衛家ニモ仰付ラレテ、今年ノ御茶ニハ遊バスベシト思召也ト仰ラル、

〔毛吹草〕山城 坊門茶筴○鹿相物空也堂 大和 高山茶筴